



2017-18 年度総会・学友会知的交流のつどいを開催して

RI2770 地区学友会 会長 服部純一

9月2日、大宮ソニックシティを会場に、2017-18年度のRI2770地区学友会総会と、引き続いて「学友会知的交流のつどい」を開催しました。当日は大貫ガバナー・中川ガバナーエレクトを始め地区財団関係のロータリアンも多数ご列席いただき、新年度体制を確立することができました。今年度は、学友会長以下役員は全員再任されております。

また、日本ロータリー学友会会長の松下衛様と代表幹事の高木直之様もご出席いただき、松下会長にご挨拶いただき、引き続きの知的交流のつどいでは高木代表幹事に講演をいただき、充実した総会となりました。会員ではJAXAの島田さん、政党役員の田川さん、美術家の駒田さんなど、役員以外にも古い年度の学友も参加いただき、学友会の層の厚さを実感できるつどいになりました。

今回の「知的交流のつどい」は、昨年度の「学習会シンポジウム」の流れを引き継ぎ、今後とも学友の幅広い分野での専門性と社会的な活躍を、ロータリーが育てた知的集団として、会員同士の交流と共に、ロータリー活動に於いても貢献できる人材として、広くロータリアンにも知っていただくという主旨で、総会の後に開催しました。「青少年交換学生OB会や米山奨学生学友会、ロータアクトなどのロータリー関連学友組織が交流できる場をつくりたい」と大貫ガバナーが提唱され、地区大会でもその試みが行われます。私達財団学友も、私たちの経験を先ず学友間で交流交換し、その交流の輪を地区ロータリーとの協力で広げられればと考えています。



講演いただいた高木直之さんは、東京外語大から1987-88年、アメリカ合衆国ニューハンプシャー大学に留学した学友で、東京海洋大学海洋工学部で英語を教えていらっしゃる教授です。学友で結成された、かながわ湘南RCの創立会長でもあります。

今回は、日本の経済を船舶による輸出入で支える国際航路の現状、特に日本人は船長や士官クラスのみで甲板員や機関員などの船員は外国人で多国籍化している船舶の中でコミュニケーションツールとして使われる英語について、お話いただきました。クイズも交え、先生の専門の英語コミュニケーションと言語認知心理学の知見も交えた、大変興味深いお話でした。

2018-19 年度奨学生を紹介します (オリエンテーションのプレゼンから)

今年4月の財団奨学生試験を合格し、2018-19年度奨学生候補者としてオリエンテーションを受けているのは、3名とも現職の医師です。

高野恭平さんは、現在ロンドン大学で公衆衛生学を学んでいる産婦人科医です。赤ちゃんの死亡について、特に開発途上国における死産や乳児死亡のリスクについて研究をしています。

エチオピアでは、年間260万人が5歳を迎えずになくなり、そのうち、45%は一か月未満でなくなるという現状から、「ハイリスクアプローチ」という方法で、一か月未満の死を減らすための調査を行うことをめざしているそうです。多くの乳児の生命を救うために、ターゲットを絞り集中して乳児死亡を高めている要素を改善していく研究に取り組んでいます。



(草加松原ロータリークラブ推薦)

成田瑞さんは、現在国立精神神経医療研究センターで精神科医をされています。ベッドサイドの患者さんの診療に携わるだけでなく、予防に関する臨床研究を行っています。未来の患者さんを救う可能性を模索したいということで、ハーバード大公衆衛生大学院で、精神科領域での疾病予防に関する研究を希望しています。

精神科の疾病予防という分野は、スキルを持った人間が絶対的に不足しているので、臨床研究のほか、後進の育成にも力を注ぎ、間接的にも社会に貢献したいと考えています。

(幸手ロータリークラブ推薦)



築瀬史貴さんは、現在自治医科大学さいたま医療センターで勤務されている医師です。集中治療の専門医ですが、各科の医者だけでは治療困難な重症患者を専門に治療しています。

日本では、集中治療の専門医が少ないこと、オーストラリアでは敗血症という重症感染症に対して、新しい治療法を現行治療法と臨床研究で比較した研究が可能であるということで、オーストラリアで集中治療関連の大学院進学を希望しています。

(大宮ロータリークラブ推薦)



学友の勤務先・現住所・メールアドレスなどの変更があった場合、是非学友会の事務局、或いは地区事務所にご連絡ください。